

「魔法の言葉」

鳴門市第一中学校 一年 藤田 莉桜

「気をつけてね」

この「気をつけてね」と言うだけで事故にあう確率が7%減るという記事を読みました。記事を読んだ時、そんな簡単なことで事故は減るはずないと私は思いました。でも改めて思い出してみると私自身たくさんのが「気をつけてね」と言葉をかけてもらつてました。

私が登校するとき、母は「いってらっしゃい」の後に必ず「気をつけてね」と声をかけてくれます。雨が降っているときは「雨が降っているから気をつけてね」と、私が寝坊して急いで家を出ようとしたときも「急がず気をつけてね」と声をかけてくれます。朝寝坊しているときや人を待たせているときは特に気持ちがあせつてしまつて急ぐことばかりを考えてしまいがちな私ですが、その一言で私のあせつている気持ちを落ち着かせてくれます。また「気をつけてね」と声をかけてくれているのは母や家族の人だけではありません。近所の人や登下校を見守ってくれている見守り隊の人、学校の先生などたくさん的人が声をかけてくれます。この「気をつけてね」という言葉には、信号を守ることや信号のないところではしっかりと左右の確認をすること、自転車のスピードを飛ばしすぎないなどたくさんの言葉が集約されているのです。私が無事に登下校できるようにとたくさん的人が気にかけてくれていたのだと感じます。

警視庁の「交通事故統計」によると、交通事故の約8割の原因は人的要因によるものだと書いていました。これは一時停止をしなかつたり、信号無視や左右の確認不足など不注意やマナーの悪さが事故の一番の原因になつているということです。こうした人的要因による事故は自分たちの行動や意識の持ち方で事故を減らすことができます。しかし安全運転は大事だと日頃思ついても、急いでいたり毎日同じ道を通ることで「これぐらい大丈夫だろ」と意識がうすくなつてしまします。そんなときに「気をつけてね」と声かけしてくれていると意識を再度呼び覚めることができます。そう考えると「気をつけてね」の言葉はただの言葉でなく魔法の言葉に思えてきました。

「気をつけてね」という一言は不注意を防ぎ、時には人の命を守るきっかけになるんだと気づくことができました。相手の安全を願う心によつて出る言葉なのです。私自身その言葉で意識が変わることができたので、これからは友だちと別れるとき「バイバイ」だけでなく「気をつけてね」と一声かけようと思いました。そんな小さな声かけがみんなの安全を守る第一歩になり、いつか本当に誰かの命を守ることができるかもしれません。